【資料３】

自動運転サービス実証実験の概要と検証結果

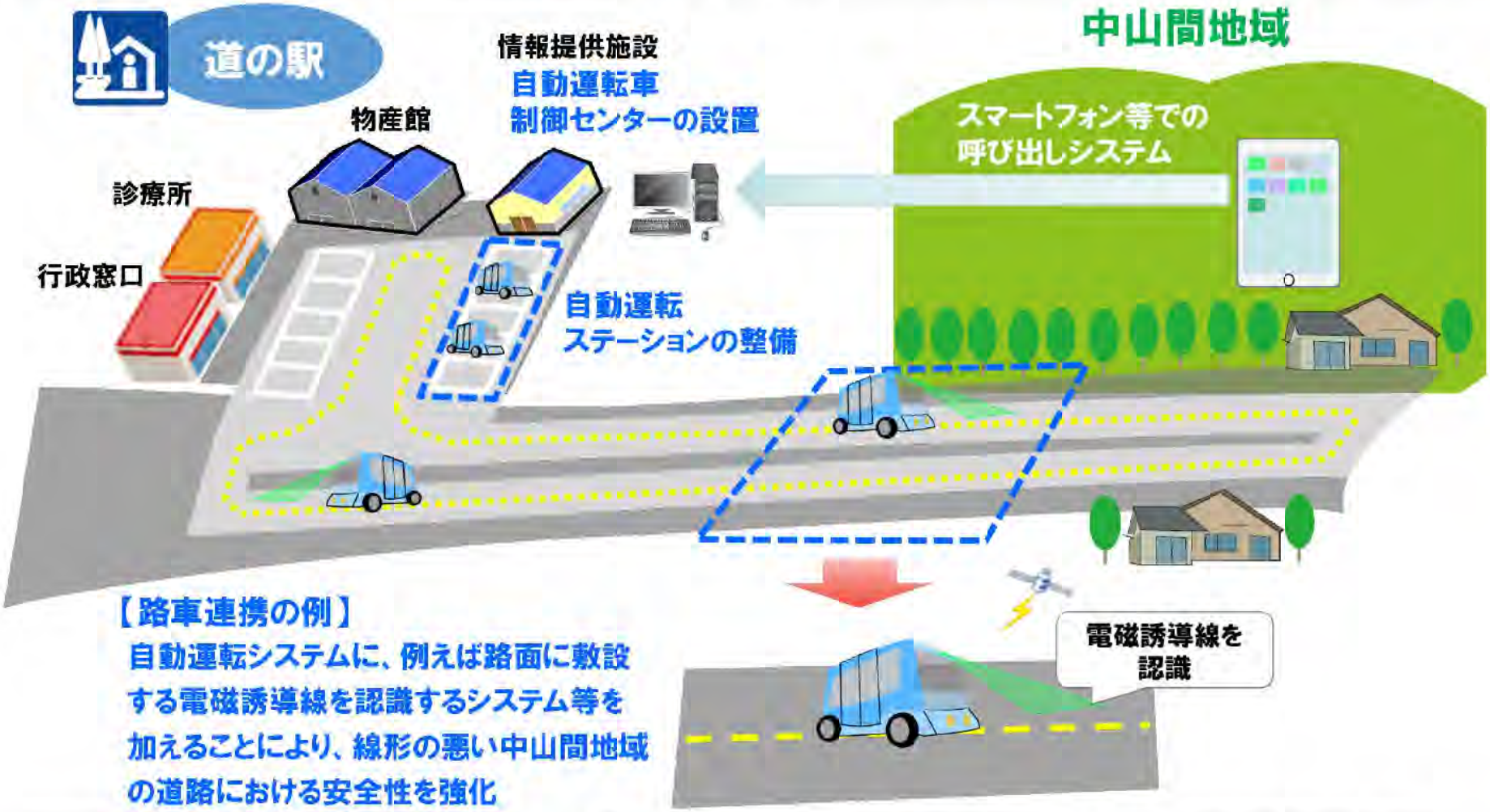
国土交通省 北海道開発局

平成３０年８月８日

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

「第3回中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転ビジネスモデル検討会」（H30.5.14）資料

●高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保 （宅配便・農産物の集出荷等）	貨客混載 ⟷	生活の足の確保 （買物・病院、公共サービス等）	地域の活性化 （観光・働く場の創造等）

全国13箇所で順次実験開始（平成29年9月～）

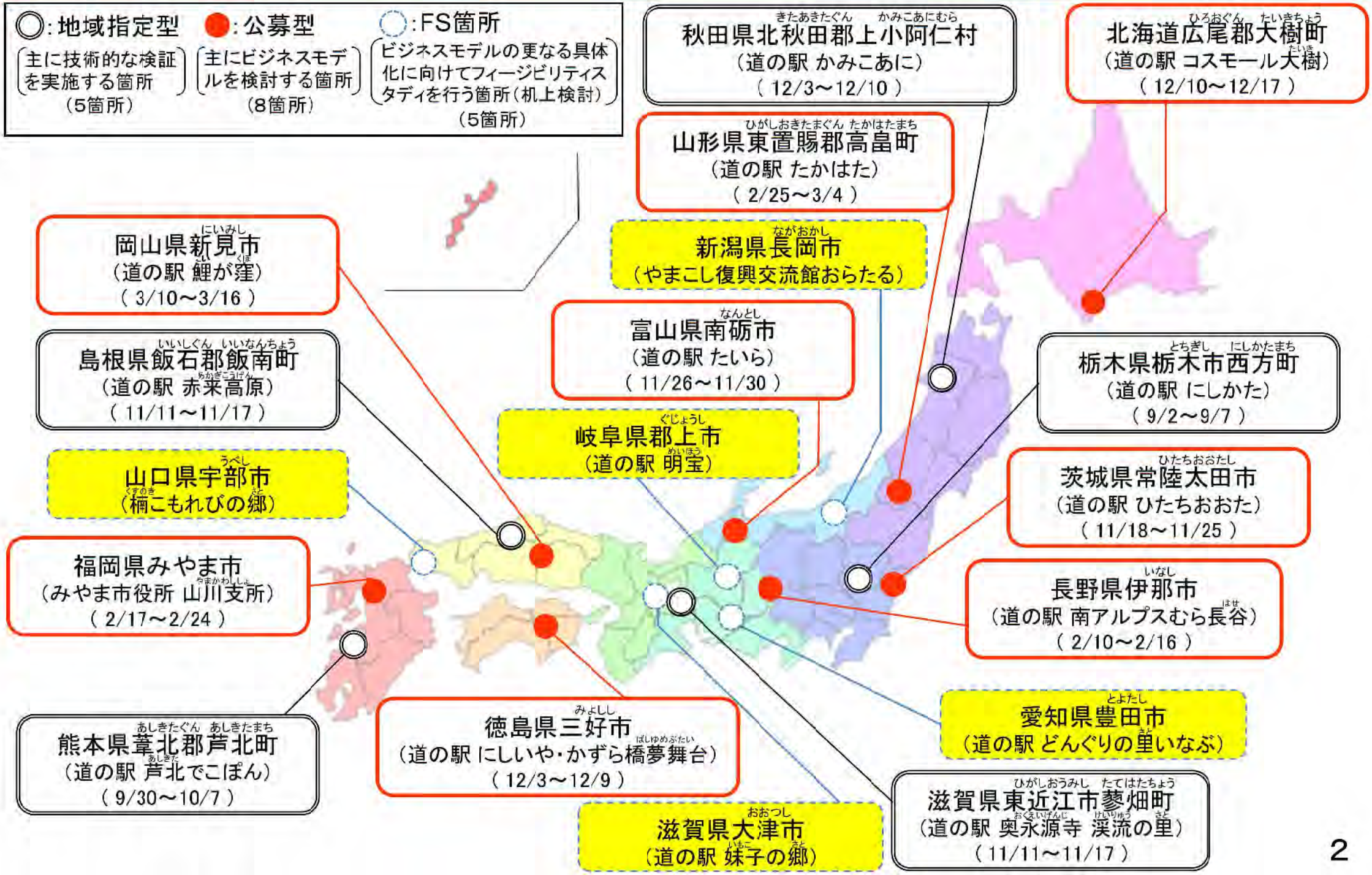
平成29年度　実証実験箇所　位置図

「第3回中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転ビジネスモデル検討会」（H30.5.14）資料

◎：地域指定型（主に技術的な検証を実施する箇所）（5箇所）

●：公募型（主にビジネスモデルを検討する箇所）（8箇所）

○：FS箇所（ビジネスモデルの更なる具体化に向けてフィージビリティスタディを行う箇所（机上検討））（5箇所）



道の駅「コスモール大樹」における実証実験（北海道広尾郡大樹町

「第3回中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転ビジネスモデル検討会」（H30.5.14）資料

○ 道の駅「コスモール大樹」を中心に、病院や町役場、生産物出荷場を結ぶ走行延長約7．6kmのルートを走行。
○ マイクロバスタイプ車両（レベル2＋4）を使用し、周辺住民を中心に約120名がモニターとして乗車。

北海道開発局撮影

「道路・交通」の検証

路面積雪時の勾配区間や路肩積雪区間での自動走行

・圧雪路面状態においても、概ね円滑に自動走行

「路車連携技術」の検証

路面に埋設した磁気マーカの読み取りによる自動走行（運転手不在）

「地域への効果」の検証

自動運転車から路線バスへの乗り継ぎ（利便性の検証）

【使用した車両】
（先進モビリティ（株））

○GPSと磁気マーカにより自己位置を特定して走行

○運転手が監視しながらの走行（レベル2）も可能

道の駅等を拠点とした自動運転サービス 実証実験の進め方（案）

「第4回中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転ビジネスモデル検討会」（H30.7.9）資料

	実証実験
H29年度（2017）	**短期の実証実験（1週間程度）** ○主に技術的検証やビジネスモデルの検討 ○全国13箇所で実施（総走行距離：約2,200km　参加者：約1,400人）
H30年度（2018）～	**長期の実証実験（1～2か月程度）** ○主にビジネスモデルの構築 ○H29年度に実験を実施した13箇所のうち、車両調達の見通しやビジネスモデルの検討状況等を踏まえて、準備が整った箇所から順次実施 ○翌年度以降の早期社会実装を目指す （平成30年度は5～6箇所程度） ※この他、H29年度のFS箇所のうち、地域での検討の熟度に応じて、順次実証実験を検討

「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指す